

自分なりの思いや願いをもち自分の世界を広げていく幼児を育む -「つながりマップ」を基にした幼児理解と環境の構成-



特別研修員 幼児教育 川島 奈津子 (幼稚園教諭)

<p>幼児の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> 好奇心をもち自分の好きなことに興味をもって遊んでいる 環境に関わり試してみるが、更に工夫したり挑戦したりすることが少ない 失敗や負けることを怖がる <p>教師の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> 前向きな見通しをもって遊んだり、自分の存在感を感じたりしながら、安心して試行錯誤してほしい 自分の世界を広げていく楽しさを感じてほしい 	<p>手立て1</p> <p>幼児の思いや願い、友達との関係性などのつながりを記録する「つながりマップ」を基に行う幼児理解</p> <p>手立て2</p> <p>「つながりマップ」で捉えた幼児理解を基にした、教師の関わりや援助、状況づくり等の環境の構成の工夫</p>	<p>成果</p> <p>「つながりマップ」を基に幼児理解を深め、心の動きや友達関係の変容が見られたときにタイミングを逃さずに働き掛けたことが、「やってみよう」「挑戦してみよう」「やり遂げよう」などの気持ちを幼児自ら発揮して行動することにつながった。</p> <p>課題</p> <p>より多面的、多角的に幼児理解を行うために、複数の保育者で「つながりマップ」を作成したり、保育カンファレンスを行ったりするなど、活用の仕方を探る必要性が出てきた。</p>
--	---	---

進級当初のA児

鬼に捕まりたくない。負けるのが嫌。椅子取りゲームは応援する人がいい。

こぼしたり、失敗したりするのが嫌だから、給食の配膳をやりたいくないな。

課題となっている部分に目がいきがちだけど...

勝ち負けがある遊びだけでなく学級の友達と触れ合ったり、つながりを感じたりできるような集団での遊びをたくさんしよう。

給食の配膳を当番活動にせず、やりたい気持ちや必要感をもった幼児が助け合っているようにしよう。

「つながりマップ」とは

一人一人の幼児の心の動きと学級全体の友達とのつながりや関係を視覚的に記録する「**相関図型の記録**」。線の太さや色、吹き出しの形や色で幼児同士の関係を表す。

「**つながりマップ**」で幼児理解を深め、A児が自己発揮できる状況を作っていく。

「温かく支援的な風土」「自己発揮」「安心感」

6月 「つながりマップ」から

友達と鬼遊びや集団での遊びを楽しんでいる。自分の好きな遊びの中では、うまくいかないことがあっても「やってみよう」とする気持ちが芽生えてきた。

(バナナ鬼の中で意図してA児を捕まえる) Aちゃん捕まえた!

(落ち込むA児に対して) きっと友達が助けてくれるから大丈夫

その場に座りこんだが、しばらくすると周りの友達にも聞こえるような大きな声で助けを求めた。気付いた友達がA児を助けると「ありがとう」と笑顔で伝え、再び友達と一緒に笑顔で走り始めた。

7月 「つながりマップ」から

遊びや生活の中で少しずつ自己発揮できるようになってきた。「B児と一緒にいろいろな遊びに挑戦したい」という気持ちが芽生えてきている。

Bちゃんと一緒に給食の配膳をやってみるのはどうかな?

「うん。Bちゃんと一緒だったらできそう」と二人で配膳を行った。終わると「楽しかった!またやりたい」と笑顔で話した。翌日から進んで配膳を行った。

10月 「つながりマップ」から

B児以外の友達とも砂場やブロックで遊んだり、鬼遊びをしたりしている。友達関係が広がり、深まってきている。

自分の気持ちを言葉で伝えたり、友達の思いを聞いたりする中で、A児が自分の存在感を感じたり、前向きな見通しをもったりできるような状況づくりをしていこう。

自分の気持ちを伝えたり、友達の気持ちを聞いたりして安心して、鬼遊びの続きを始めた。

A児: 今度は大きな声で「助けて」って言うよ。

A児: 助けてって言おうと思ったけど声が出なかったんだ。

そうだったんだね。「助けて」って聞こえたら、助けてくれたかな?

C児: 捕まってるの、全然気付かなかったよ。次は助けるよ!

2学期後半のA児

やってみよう! 挑戦してみる!

友達の存在が安心感となり、前向きな見通しをもって、主体的に遊ぶようになった。以前は、消極的だったことにも、安心して挑戦するようになった。長縄跳びをする友達の後ろで、一緒に跳ぶまねをしていた。「挑戦してみる?」と声を掛けると、初めて挑戦し、跳べると笑顔で喜んだ。